

「当院における予防的アフェレシス受療者への意識調査」

東京ミッドタウン先端医療研究所¹⁾

順天堂大学膠原病内科²⁾

同志社大学大学院生命医科学研究科アンチエイジングリサーチセンター³⁾

順天堂東京江東高齢者医療センター高齢者総合診療科⁴⁾

渡邊美和子¹⁾ 田口淳一¹⁾ 境野智之¹⁾ 安田光徳²⁾ 米井嘉一³⁾ 梁広石⁴⁾

【目的】血液浄化療法の予防的効果のニーズに対応するため、動脈硬化進展予防主目的の DFPP を自費診療で開始し、約 1 年間で 61 例（延べ 100 回施行、複数回実施 15 例、単回実施 46 例）を経験した。自費診療の評価となる受療者感想につきアンケートを実施しその結果をまとめた。

【対象】回答は 19 例（31.1%）から得られ、背景は平均年齢 55±11 歳、治療回数平均 2.5±2.8 回であった。危険因子保有例は、脂質異常症 13 例、高血圧症 8 例、糖尿病 6 例であった。

【方法】受療者には事前に院内倫理委員会承認済み同意説明書で十分な説明と文書での同意を得た。DFPP は Plasmflo OP-05W（旭化成メディカル）、Cascadeflo EC-50W（同上）を用い、血液流量 30～60ml/分、血漿流量 30～33%、血漿処理量は目標 1500～2000ml とした。

【結果】治療の主な動機は動脈硬化進展予防 16 例以外にアンチエイジング 3 例、アトピー性皮膚炎 1 例であった。治療後 3 例が軽度の倦怠感、1 例が指先の痺れを自覚したが身体的負担まで訴えた例はなく、視界や皮膚の自覚症状、及び冷え症、肩こりの改善等も認められた。血液検査では各脂質 20～60%の除去以外に、高感度 CRP やペントシジンの有意な除去効果を認め、FMD 反応も改善を認めた。治療を契機に生活習慣改善に至った例が 5 例、継続的治療希望が 9 例であった。

【結論】生活習慣病に対する標準治療の補助治療、更に早期導入の予防効果に対して DFPP は選択肢の一つになり得る事が示唆された。